
時の戦い

憂月 朱音

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時の戦い

【Nコード】

N4617Z

【作者名】

憂月 朱音

【あらすじ】

人間の悲しみや憎悪などの負の感情を糧として生きる人のような姿形をした魏鬼^{キキ}と呼ばれる生物。

そして人を殺すことが何よりも好む。

それを追って倒すのが対魏鬼様の特殊な能力を持った者たちを

時巡り（トキメグリ）

と呼ぶ。
・
・
。

呼び出し（前書き）

どうも。憂月朱音です。

連載小説です。

読んで楽しんでいただければ何よりです

呼び出し

ピロリン

携帯の電信音が響く、どうやらメールが届いたらしい。

内容はく指令室に来るようにくただその一言が書かれてあった。

ハアと小さく息を吐くとハンガーにかかっている白いコートを取る。
それをバサリと羽織ると部屋を出る。

部屋を出て少し歩いたところにエレベーターがある。

それに乗り込むと1階にある指令室に行くためにボタンを押す。

暫くするとチンという音とともに、

エレベーターが開くと目の前には大きく重々しい扉がある。

その扉にはく指令室くと書かれたプレートがかかっている。

いつ見ても緊張する扉の前で一度深呼吸をする。

(落ち着け。たとえ説教でも臆するな)

覚悟を決めるとコンコンとノックする

「失礼します」

「どうぞ」

中に入ると壁を覆ういくつもの大きな本棚と

資料が山積みになったデスクに座った若い男性が目に入る。

デスクに座る男性は沢村奏人。私が在籍する組織の団長で
とても生真面目な方で冗談や嘘が通じない。

サラサラな黒髪で切れ長の目、スラリとした長身。
外見だけならかなりカッコいい方だろう。

「城ヶ崎、任務が入った」

「え？」

「^{ギキ}魏鬼がフランスのある街に出没するらしいから行ってくれ」
「フランス？」

フランスって凱旋門とかフランス革命とかのフランス？

「城ヶ崎には今すぐ行ってもらおう」

「わかりました・・・」

口先ではわかりましたと言ったときながら頭では何も理解できていない。

（いきなりフランスとかどういうことだよーーーーー！！）

「じゃあこれ今回のデータ、どこの町とか書いといたから」

と言って一冊の分厚いファイルを投げってくる

「え？ワア！！」

唐突に投げられたものだから受け取るのもギリギリだった。

「じゃあ行つてらっしゃい」

（いや、いきなり行つてらっしゃいと言われても・・・）

まだ何がどうなのか私には理解できていなかった。

「行ってきます」

一応それだけ言って指令室を出る。

ファイルを開きざっと目を通す。

「了解、そういうことですか」

ようやくすべてを理解することが出来た。

「では、行きますか。私たち時巡りの天敵を倒しに」

軽く微笑んでから、さっと身を翻すと

もう一つの目的地にむかって歩き出した。

呼び出し（後書き）

えー。

色々分かり辛い終わらせ方で申し訳ありません

そしてひどい文章でこちらも同じく申し訳ありません。

あと一応戦闘ものです。

しかし今回は入れることができませんでした

次には入る予定です！！

続きは明日投稿したいと思っています。

良ければ読んでみてください

そしてこの小説に関するアドバイス、感想をよろしければお願いします

ではこれからもよろしく願います。

好敵手との再会

指令室からでた私は自室に戻っていた。

そしてクローゼットを開けて大きめの黒いか肩掛けバックを取り出す。

その中に自分の団員証明書やランプ、ロープなどのアウトドアグッズ、食料やよくわからない文字が書かれた細長い白い紙などを次々に放り込んでいく。

そしてそのバックがパンパンになった頃壁に立てかけてある一本の刀を手にとった。

大業物 アマシズク 雨雫

私のことをよく理解してくれる良い刀だ。

おもむろに刀を鞘から抜いてシュツと一振りしたから鞘に戻る。

刀を腰に差し、足元に置いてあった黒いバックをとり肩にかける。

そして小さく「行ってきます」と呟いてから部屋を出た。

私の名前は城ヶ崎琴葉 ジョウガサキコトハ

17歳、A型、獅子座

自分の外見をあえて言うのであれば

後頭部より上の方で髪を一つにまとめ、目は少々吊り目

そして170?に及ぶ身長。

私の実家は古くから妖払いを生業としてきた。

私もその家の生まれたにもかかわらず妖払いの力は1mmも流れていない。

妖払いの力の代わりに私には世界でも10人もいない<時巡り>の力があつた。

9

そもそもその<時巡り>とは
時を自由に行き来し時巡りの天敵を
時巡りの持つ力で払う者たちのことを言う。

ちなみに天敵とは
人間の悲しみや憎悪などの負の感情を糧として生き
人のような姿形をした魏鬼キキと呼ばれる生物。

のことを指す。

人に悪影響しか及ばさない魏鬼を払うのが私たち時巡りだ。

そして私たちは退魔集団<時の神>に属している。

ここから各地のいろんな時代に出没する魏鬼を払いに行く。

そして今からいくフランスも時巡りとしての仕事だ。

てなわけで私たちの時巡りの説明はこれでお終い。

とその時だった。

「ティムツ・・・」

この世で一番会いたくない人間が視界に入った。

t
o

b
e

c
o
n
t
e
n
t
e
d

好敵手との再会（後書き）

今回は説明がメインでした。

次回はティムと呼んだ人間が誰だかを書いていきたいと思います。

今回も色々と残念な文になったのに読んでくれた方に大感謝です！！

このお話に関してのアドバイス、感想があればよろしくお願いします！！

今回まるっきり背景描写がないな・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4617z/>

時の戦い

2011年12月20日18時56分発行